

1. 災害発生時の対応（大地震発生時） 9箇条

第1 まず自分と家族の安全と出口の確保が大切

- ・素早く机やテーブルの下に入る。落下物や転倒物を避けるところに行く
- ・出口を確保（扉を開ける）、避難通路の確保

第2 あわてて外へ飛び出さない

第3 火元の確認・火の始末

- ・揺れが収まったら火を消す。
- ・初期消火のチャンスは3回。①地震の揺れ始め、②揺れが収まった時、③出火直後。但し、安全優先で、あわてずに。

第4 設備の安全確保

- ・電気ブレーカーを落とす
- ・ガス・水道の元栓を閉める

第5 徒歩で移動・避難

- ・日頃から家族で避難経路を話し合っておく

第6 危険な物から身を守る

- ・ブロック塀や門に近寄らない。頭はヘルメットやかばんなどで保護
- ・スーパーで地震に遭ったら買い物かごを頭へ
- ・垂れ下った電線には絶対触れない

第7 デマに注意 正しい情報で行動

- ・正確でない情報はむやみに他人に伝えない
- ・行政から出る情報、携帯ラジオなどの情報を優先する

第8 安否の連絡をとる

- ・落ち着いたら家族や職場との連絡を

第9 出先で災害に遭ったら指示に従う

- ・スーパー、ホテルなどはそれぞれの防災対策あり。指示に従う

2. 家庭内で日頃からどうするか

(1) 危険防止対策をする

①家具類の転倒防止対策

- ・家具類の転倒防止を施す。防止グッズなどが有効

②物の落下防止対策

- ・家具の上には重いものを置かないように

③ガラスの飛散防止

- ・食器棚などのガラスが割れて飛散しないよう粘着テープや透明フィルムなどを貼る

④ガスコンロなどの周辺を整理整頓

- ・コンロやストーブ周辺に燃えやすいものは置かない。灯油などは缶に密閉して保管

⑤ブロック塀等の転倒防止

- ・ブロック塀や門柱などは倒壊防止の補強を

(2) 家庭内で話し合いをする

日頃から家庭内で防災会議を行う。

- ①地震が起きたときに各自は何をするか
- ②消火器など備えてあるか、使い方は
- ③家庭間の連絡方法、NTT伝言ダイヤル（171）の使い方
- ④避難場所は、安全な避難経路はどこか（年寄り、乳幼児、病人がいる場合はどうするか）
- ⑤非常持ち出し品のチェック、置いてある場所はどこか
- ⑥家具転倒防止はしてあるか、家庭内の整理整頓はできているか
- ⑦災害情報の入手

(3) 災害に備えた準備品（必要最低限）

非常食	3日分程度（火を通さなくても食べられるもの）（保存期間2年～5年）
飲料水	1.5ℓのペットボトル2本（1人1日分）
携帯ラジオ	AMとFM両方聞けるもの
救急薬品	持病のある場合は常備薬も
懐中電灯	予備電池も用意
その他	小銭、ドライシャンプー、ウェットティッシュ、ラップ、ろうそく（マッチ、ライター）、笛（ホイッスル）、トイレトペーパー、筆記用具、風呂敷など

(4) 非常持ち出し品

貴重品	現金、権利証書、預貯金通帳、免許証、印鑑、健康保険証、カード類
非常食品	乾パン、缶詰（缶切り）、飲料水など
応急医薬品	消毒薬、常備薬、胃腸薬、目薬、救急絆創膏、三角巾、はさみなど
衣類	下着、上着、タオル、靴下、軍手、雨具、など
照明器具	懐中電灯（電池）、ろうそく（マッチ、ライター）など
携帯ラジオ	予備電池は多めに
食器セット	簡易セット（家族分）

小山市の防災 URL <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kurashi/bosai/index.html>